

# 会 議 録

《会議名称》 令和6年度 第1回岸和田市緑地保全等審議会 《開催日時》 令和6年8月9日(金)15:00~17:00 《開催場所》 岸和田市職員会館2階 大会議室	承認															
	会長	田口委員														
	9/9	9/17														
《出席者》（緑地保全等審議会委員出欠状況） <table><tr><td>下村 会長</td><td>堀田 副会長</td><td>上野 委員</td><td>川原 委員</td><td>田口 委員</td><td>竹田 委員</td><td>松井 委員</td></tr><tr><td>○</td><td>○</td><td>×</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr></table> <div>(委員7名中、6名出席)</div>			下村 会長	堀田 副会長	上野 委員	川原 委員	田口 委員	竹田 委員	松井 委員	○	○	×	○	○	○	○
下村 会長	堀田 副会長	上野 委員	川原 委員	田口 委員	竹田 委員	松井 委員										
○	○	×	○	○	○	○										
岸和田市) 河畑 建設部長 事務局) 水とみどり課 黒見、渡邊、川端、奥、竹原 (株)公園マネジメント研究所 恵谷、日高																
《傍聴者》0名																
《概要》 <div>■議題</div> <div>1.議案第1号 岸和田市みどりの基本計画における各施策の推進について</div> <div>■その他</div> <div>1.次回緑地保全等審議会の公開・非公開について</div>																
《内容》 <div>■岸和田市緑地保全等審議会の会議及び会議録の公開に関する要領等について</div> <div>(会長) 令和6年度第1回岸和田市緑地保全等審議会の会議録承認者として田口委員を指名。</div> <div>■議題</div> <div>1. 議案第1号 岸和田市みどりの基本計画における各施策について</div> <div>議案第1号について、事務局より説明。</div> <div>【質疑の概要】</div> <div>(会長) 現時点ではまだ抽象的な表現も多く、プランの全体をつかみにくいかなと思うが、意見をいただきたい。確認だが、市内全ての公園の今後の方向性を、このプランの中で位置づけていくことになるのか。</div> <div>(事務局) プランでは役割分担、機能強化などの岸和田市全体としての考え方をお示しする。そのうえで、小学校区等の地域単位での公園等の現況やそれを踏まえた個別公園の方向性の素案を示し、それに対して市民からの意見を聞きながら、地域ごとの公園等の整備・運営の計画を検討することをイメージしている。</div> <div>(会長) 基本方針案の「市民主体」というのは、どの段階で大きくプランに関わってくるのか。まずは公園と地域特性等で300公園を分類して、それから市民意見をあわせて考えていく、という流れになるのか。</div> <div>(事務局) 会長のご指摘のとおりで、一旦は市の方で300公園を分類して、大きな方向性の素案のようなものを市民に示して、そこでご意見をいただくように進めたいと考えている。</div> <div>(会長) 市が機能転換すべきと考えている公園であっても、市民がそのまま維持したいと望めば、方向性を見直すということか。それともプランをつくっていく途中で、市民意見を入れて、プランにしていくということか。</div>																

(事務局) アクションプランとしては一旦きちんと立てて、プランを動かす段階で市民の意見を受けて、実際の公園の取り扱いを判断するという流れを考えている。

(委員) まず市として、「公園を大事にしたい」という、柱になる考えを示してもらわないと、市民は意見を出しにくい。また、市民主体というが、現実には地域の団体も活動が停滞しているなかで、本当にできるのか。また、公園単位なのか、地域単位なのか、単位をまたいで連携していくのかなど、計画の検討範囲に分かりにくさがあるので今後わかりやすく説明願いたい。

(会長) 地域団体の現状を踏まえると、プランの方向性を定める段階で、地域団体間のネットワーク化を図るなど、計画作成のプロセス整理が必要になる。

(委員) 計画段階で市民意見を積み上げていく必要があるのではないか。

(委員) 地域との連携では、民生委員の方々など実際に地域に入っている方々に意見を聞いてはどうか。また、事前に市内部で横断的に情報収集など行うことも効果的である。

(事務局) 検討の進め方については、アクションプランは、計画を進めていく中で随時見直していくものだと思っており、市で整理したプランを地元の方々と意見を重ねながら、市民のニーズを把握して最終的によりよい公園づくりを目指していけたらと思う。

(副会長) 地域団体の活力が低下している中、市民意見を把握するうえで、どういう人、団体であれば関われるのかということに対して、地域の特徴にに応じて、より具体的なイメージをもって当たることだろうと思う。いまは関わってなくても、ポテンシャルのある人たちに意見を聞いて欲しい。

(委員) 市として考えをまとめる時に、公園担当だけでまとめるのではなく、もっと庁内のいろいろな意見を集めて、ポテンシャルを探るべきだろうと思う。とくに福祉部局など「地域」についての情報を多く持っている方々からあらかじめ情報を集めておくことが、公園担当が市民意見を確認する助けになるのではないだろうか。

(委員) 小学校区をまたがって連合町会になっているところもあり、地域により状況はさまざまである。私自身も町会長をやっていたが、総論では議論ができにくく、どうしても各論に落ちていってしまうので、やり方を考えていく必要があるのではないか。

(会長) 公園の利用形態、利用主体にも色々あるので、「公園利用」として一律にまとめてしまうのではなく、できるだけ多くの立場の方に意見を聞いていくことを考えるべきだろう。他都市では、学校園や福祉施設にアンケートをして、よく使う公園を把握した例などもある。

(委員) 今後意見を聞く市民の中に、子どもがどの程度入ることになるかが気になる。もっと子どもの声を聞くべきだろう。小学校高学年くらいならアンケートに答えてもらうことも可能だろうし、なんらかの方法を考えるべきだ。

(会長) 小学生を対象にアンケートをしている例もある。事務局には、聞き方も含めて検討いただきたい。委員にお聞きしたいのは、最近の子どもたちは、公園でどの程度遊んでいるのだろうか。

(委員) 最近は学校に学童保育が併設されることも増えている。具体的なデータなどを把握しているわけではないが、放課後の遊び場が多様化し、公園へのニーズが相対的には下がっているかも知れない。

(会長) 市民ニーズであれば何でも受け止めるというのではなく、様々な立場、年代の皆さんの考えを整理して、「公園のあり様をもう一度考えよう」というのが岸和田市のこのアクションプランの目的だろうと思うので、そこをしっかりと突き詰めて欲しい。「誰に、どのように意見を聞くのか」というプロセスを、プランの中に含めていって欲しい。

(委員) 市として案を持っていくのであれば、市として「どうしたいのか」をもっと市民に伝わる言葉で整理して欲しい。「適正配置」では、反発を招くと思う。ひとつひとつの公園には、面白い使われ方をしているものも多く、なぜそう利用されているのかなど、把握して考える必要があるだろう。

(会長) 他の公共施設と一体的に連携できるような公園のあり方もあるだろう。

(委員) 先ほどのご意見にあった市の考え方というのは総合計画にも書かれており、その計画には公園の地域圏を活かした健康づくりの推進などがある。このような計画を実現するために公園を資源やツールと捉えて、岸和田市のめざすまちづくりに、公園をどう有効に使っていくべきか、という点について整合するように、プランの進め方についてスケジュールなどを設定するイメージかと思う。

(会長) 公園は、いろいろな活動の受け皿としての価値があるので、委員の指摘も受けて検討して欲しい。

## ②スマート公園岸和田アクションプランの概要（案）について 資料3について、事務局より説明。

(会長) 公園の誘致圏の考え方について、基本的に準用することは問題ないと思うが、再配置により特色ある公園が誘致圏を超えたところにある場合をどう取り扱うかなど、公園のストックマネジメントを行う際に考え方を整理しておく必要があるのではないかな。

また、立地適正化計画の居住誘導区域から外れる時には、公共施設の配置を減らすことにもつながる場合が考えられるので、岸和田市の計画策定スケジュールともすり合わせながら、防災上のハザードを含め関連計画の織り込みは必要があるのではないかな。

(事務局) 立地適正化計画については他部局にて策定を進めているところであり、適宜担当課と情報共有を図り、プランに反映していきたい。ただ、市街化区域のほとんどが居住誘導区域になると見込まれるので、その調整はしていきたい。

(委員) 素案をつくっていく過程で、都市計画マスタープランの地域像等とのすり合わせは必要だと思う

ことと、客観的データになると数字が全面に出すぎて、市民の理解が難しくなることもあるので、そこは示し方を工夫して欲しい。

地域における管理体制について、いわゆる指定管理者とは異なる、まちづくり協議会やエリアマネジメント団体のようなものも考慮すべきだろう。公園管理者の立場から市民の活動を捉えるのではなく、市民がなにをしたいから公園を使っているのか、という逆の市民の視点を持っておいて欲しい。

（事務局）委員のご意見にある、市民への見せ方、対話の仕方という点には、とくに気をつけて整理をしていきたい。

（会長）協働の活動の目的は「近所で仲良く暮らす」ことであり、公園を掃除することや、花を植えるのは手段だと思う。そうした点を踏まえて、公園の持つ意味をもっと打ち出して欲しい。

（委員）総合計画にも関わったが、「岸和田の自然を身近に感じている人の数」を把握することが難しかった。数字に想いを通わせることについては、もっと工夫が必要だと思う。

また、公園や水、緑をどのようにネットワークしていくのか、については市がリードして全体を捉えて、それを地域の皆さんに理解して一緒に取り組めるよう、市民の意識を高める工夫も考えて欲しい。

（会長）みどりの基本計画にある 4 つの軸は、大規模な公園に係るものが多いので、今回のアクションプランの主たる対象になる身近な公園の検討においては、直接関連づけることは難しいものではないかと思う。

（委員）市内に居住する外国人が増えているが、将来の公園利用者として想定しているのか。

（事務局）今後、公園の利用者が多様化してくると思うので、公園のユニバーサル化についても考えて行く必要があると思う。

（副会長）参考資料 p.14 は公園の機能類型を行ったものだが、実際の利用と一致しているものなのか。

（事務局）公園の機能については、地域の実情を踏まえた具体的な議論をしていくなかで、実際の利用状況などの意見を受けてすり合わせていきたい。

#### ■その他

・次回の緑地保全等審議会については令和6年11月1日（金曜日）午後3時を予定。併せて審議会を原則公開するものとして承認を得た。

以上